

看護学部／看護学科	職名	教授	氏名	江上千代美
-----------	----	----	----	-------

## 1. 教員紹介・主な研究分野

親のレジリエンスを高めるための家族支援に関する介入研究および親の養育レジリエンス醸成の解明：親の養育レジリエンスの向上を目指す介入とそのメカニズムを明らかにする研究を行っています。また、子育てスタイル、ストレス（生体指標と質問紙）、子どもの行動等の関係性を明らかにすることも行っています。トリプル P (positive parenting program) という認知行動療法を用いて、トリプル P を学んだ親は「子育てが楽しくなった。」「子育てに自信がついた」、「もう一人子どもを産んでみようかな。」という感想がよく聞かれ、未来を担う健全な子どもの育成や少子化対策にもつながっています。トリプル P の名前にも反映しているように子どもをもつ全ての親が楽しく学ぶことで健全な家族づくり、ひいては健全な街づくりを目指すことができます。

## 2. 研究業績

### ①最近の著書・論文

- Egami, C., Tanaka, M., Shiota, N., & Yamashita, Y. (2025). Association between parenting resilience and parenting and family adjustment of mothers of children with autism spectrum disorder. *International Journal of Developmental Disabilities*, 1-11.
- 塩田昇, 江上千代美. (2024). 発達障がい児の親と定型発達児の親の 3 次元型睡眠尺度「位相」「質」「量」の比較. 福岡県立大学看護学研究紀要, 21, 27-34.
- 塩田昇, 廣瀬理絵, 松山美幸, 加藤法子, 藏元恵里子, 田中美智子, 江上千代美. (2022). 「陣痛促進剤による薬害被害者」の講演を聞いた学生は薬害防止に向け何を思い・感じたか. 福岡県立大学看護学研究紀要, 19, 77-87.

### ②その他最近の業績

<学会発表>

- 塩田昇, 江上千代美, 田中美智子. (2022). 発達障がいのある子どもの親へのトリプル P による支援がストレスに及ぼす影響. 第 42 日本看護科学学会学術集会. 広島 (Web)
- 江上千代美, 塩田昇, 田中美智子. (2022). 発達障がいのある子どもの母親の養育レジリエンスの違いとストレスへの影響-POMS、唾液コルチゾール. 第 42 日本看護科学学会学術集会. 広島 (Web)
- 江上千代美, 塩田昇. (2022). 発達障がいの診断前の未就学児をもつ親の子育てレジリエンスと子育ての適応. 第 81 回日本公衆衛生学会. 山梨 (Web)
- 江上千代美, 塩田昇. (2023). 発達障がいの診断前の未就学児をもつ親の子育てレジリエンスと子育ての適応. 第 82 回日本公衆衛生学会. つくば(Web)
- 江上千代美. (2023). 新しい生活様式での子育て支援. 第 21 回日本看護技術学会学術集会 (熊本)
- 田中美智子, 江上千代美, 松山美幸, 野末明希, 津田智子, 有松操, 長坂猛(2023). 働く更年期女性の睡眠と QOL の関係. 第 21 回日本看護技術学会学術集会 (熊本)
- Tanaka M, Nagasaka M, Egami C, Matuyama M, Nozue A (2024). Effect of patterns of RR intervals during sleep onset on sleep parameters and subjective evaluation of sleep in perimenopausal women. 第 101 回日本生理学会 (北九州)

### ③過去の主要業績

- Egami C, Morita K, Ohya T, Ishii Y, Yamashita Y, Mastuishi T.(2009). Developmental characteristics of visual cognitive function during childhood according to exploratory eye movements. Brain & Development, vol.31(10).
- Egami C, Yamashita Y, Tada Y, Anai C, Mukasa A, Yuge K, Nagamitsu S, Matsuishi T.(2015).Developmental trajectories for attention and working memory in healthy Japanese school-aged children. Brain & Development vol.37(9).
- Okabe R, Okamura H, Egami C, Tada Y, Anai C, Mukasa A, Iemura A, Nagamitsu S, Furusho J, Matsuishi T, Yamashita Y.(2015). Increased cortisol awakening response after completing the summer treatment program in children with ADHD. Brain & Development39 vol.7

### 3. 外部研究資金

- 基盤研究 (C) 発達障害のある子どもの保護者が直面する負の連鎖を断ち切る-養育レジリエンスの醸成-, 令和6年度～令和9年度 (研究代表者: 江上千代美) 2,730 千円
- 基盤研究 (C) QOL向上を目指した睡眠調節機構を基盤とした睡眠パターンの分類化と支援の構築  
研究代表者 田中美智子 4,680 千円 (研究分担者: 江上千代美)
- 基盤研究 (C) 親支援プログラム受講によって保護者は地域の子育て支援資源と積極的につながれるか, 令和4年度～令和7年度 研究代表者加藤則子 4,030 千円 (研究分担者: 江上千代美)

### 4. 受賞

なし

### 5. 所属学会

日本看護学教育学会会員, 日本看護研究学会会員, 日本看護技術学会会員, 日本看護科学学会, 日本生理学会会員, 日本公衆衛生学会

### 6. 担当授業科目

<学部>

「生態機能看護学Ⅰ」(2単位・1年・前期)、「生態機能看護学Ⅱ」(2単位・1年・後期)、「生態機能看護学Ⅲ」(1単位・4年・後期)、「生態病態看護学実験」(1単位・2年・前期)、「病態看護学Ⅱ」(2単位・2年・前期)、「基礎看護学実習Ⅱ」(2単位・2年・前期)、「健康科学」(1単位・2年・後期)、「統合実習」(2単位・4年・通年)、「専門看護学ゼミ」(2単位・3年・通年)、「卒業研究」(2単位・4年・通年)

<大学院>

「実験看護学特論」(2単位・1～2年・前期)、「実験看護学演習」(2単位・1～2年・後期)、「看護研究法」(2単位・1年・前期)、「ウイメンズヘルスト論」(1単位・1年・前期)、「ウイメンズヘルス演習」(1単位・1年・前期)、「課題研究」(4単位・1～2年・通年)、「特別研究」(4単位・1～2年・通年)

### 7. 社会貢献活動

- 田川市政治倫理審査会
- 田川市指定管理者選定委員会

- ・ 飯塚市指定管理者選定委員会等

## 8. 学外講義・講演

- ・ 福岡県基本的生活習慣習得事業（小竹町、北九州市、田川市、中間市、久留米市）
- ・ あさくら前向き子育て応援事業

## 9. 附属研究所の活動等

- ・